

## 研究部報告

副委員長 瀬川明廣



### 1. 研究主題

「自ら創造的に学び 豊かな心でたくましく郷土を拓く子供の育成」～へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かし、一人一人の児童生徒に「新たな時代を生き抜くための力」

を育む学校・学級経営と学習指導の充実を目指して～

### 2. 研究活動の重点と成果

道へき・複連の第7次長期5か年研究推進計画の2年次目として、趣旨・内容等の一層の普及浸透を期すとともに、へき地複式教育の実践と理論の統合を図り、課題の解明に向けた共同研究の充実に努める。

- (1)共同研究体制の強化と実践研究の充実
- (2)全道へき地複式教育研究大会の効果的な開催
- (3)第7次長期5か年研究推進計画の研究体制・研究内容の普及浸透
- (4)「研究部情報」の編集と発行
- (5)教育関係各機関・団体との連携

《おもな成果》

◎第54回全道へき地複式教育研究大会後志大会

9月21日・22日、後志管内9会場で開催され、全道各地から900名を超える参加者があった。大会スローガン「潮風渡るえぞ富士の大地に生きる子らに豊かな心と明日拓く力を！」のもと熱意と創意に満ちた授業公開と研究協議で大きな成果を上げた。後志へき・複連の先輩たちが残した輝かしい業績がクローズアップされた大会であった。

◎第55回全道へき地複式教育研究大会根室プレ大会

9月～10月、根室管内8会場で開催され、大会スローガン「豊饒の海と緑の大地に生き根室の未来を拓く子らに豊かな心と確かな学力を」を合い言葉に、地域に根ざした特色ある教育活動を展開した。道へき・複連の伝統が脈々と息づいていることを確認することができた。

18年度本大会に向けての成果が期待される。

◎第21回北海道へき地複式教育実践研究発表大会

10月18日、ホテルライフォート札幌において開催され、総勢66名の参加があった。

道内4地区からの第7次長期5か年研究推進計画に基づいた実践研究の提言について、質の高い研究協議が展開され、その成果を全道各地域に還元することができた。また、北海道教育大

学へき地教育研究センターとの連携による確かな研究推進の方向性が見えてきた。

◎第7次長期5か年研究推進計画の普及浸透  
道へき・複連の第7次長期5か年研究推進計画の2年目として、課題の解明と解決に向けた実践的研究を基盤に、これまでの長期・課題別・共同研究方式を継承した研究の普及に努めた。

### 3. 研究部事業報告

5月23日 第1回企画委員会  
・日程及び業務内容の確認と役割分担  
・研究推進委員会の協議内容検討

5月23日 第1回研究推進委員会  
～24日  
・平成17年度研究部計画の確認  
・研究推進委員会の組織構成の確認  
・研究推進委員の業務・役割分担  
・全道へき地複式教育研究大会後志大会の助言者の決定  
・全道へき地複式教育研究大会根室プレ大会の助言者の決定  
・平成17年度研究主題一覧・指導形態等調査について  
・各管内へき・複連の活動状況の交流

7月4日 第2回研究推進委員会  
～5日  
・各地区研究主題一覧・指導形態等調査結果取りまとめ

・研究部情報第1号の発行（各管内にCD1枚配布）

・全道へき地複式教育研究大会後志大会・根室プレ大会への協力  
・第21回教育実践研究発表大会の運営と役割分担  
・各管内へき・複連の活動状況の交流

9月21日 第54回全道へき地複式教育研究大会後志大会  
～22日  
・後志管内9会場（助言）

9月 第55回全道へき地複式教育研究大会根室プレ大会  
～10月  
・根室管内8会場（助言）

10月17日 第3回研究推進委員会  
～19日  
・後志大会、根室プレ大会の概要並びに助言報告

・道へき複教育実践研究発表大会の運営・反省

10月18日 第21回北海道へき地複式教育実践研究発表大会

1月13日 第2回企画委員会  
・次年度の研究推進体制・内容

2月16日 第4回研究推進委員会  
～17日  
・研究部情報2号の発行  
・17年度事業反省・まとめ

・18年度研究計画

## 総務部報告

副委員長 坂田幸義



### 1. 活動経過報告

平成17年  
5月10日 第1回組織検討委員会  
・委員委嘱、委員長の選出

6月9日 全へき基本調査の依頼

6月16日 第2回組織検討委員会  
・今年度の検討課題と役割分担

7月20日 全へき基本調査送付

7月28日 第3回組織検討委員会  
・今年度の課題の検討

9月21日 評議委員会  
・組織検討委員会中間答申報告

10月12日 19年度予算要望各地区へ依頼

11月16日 道小へ道へきの予算要望送付

1月30日 第4回組織検討委員会  
・答申のまとめ

### 2. 道へき・複連の組織体制の改善の検討

組織の見直しについて、過去数年にわたり財政的観点から改善を図ってきた。

役員数・会議等を減らすことにより、対応してきた。現状での常任委員会の業務を考えると、これ以上の削減はできないが、スリムで効率的な運営ができるように努めていく。

### 3. 平成18年度教育予算要望とへき地級別指定に関わる取り組み

昨年度から、教育予算要望については道教委の意向により、道小・道中・道教委の要望活動と一体となって行っている。当連盟からは、道小へ指名理事として坂田副委員長がその任に当たり、道小の場で連盟の要望を反映してきた。今後も各地区からの要望事項の実現に努める。

又、へき地級別指定の見直しについては、20年度に指定の見直しが見込まれるが、今のところ、動きは見られない。

全国・道教委の動向を見守りながら、新たな動きにたいして、関係団体と連携して対応していく。

### 4. 調査活動について

(1) 全へき連の基本調査について  
各地区より協力をいただき提出することができた。後日、各学校に配布予定。  
この調査は、17年度から毎年実施することになり、より活用しやすいものにする意向である。

(2) 19年度教育予算要望に関わる調査  
道小の予算要望策定に伴って、道へきの予算要望を各地区事務局長にお願いし集約して道小に提出した。

道教委への19年度予算要望策定の際に道へきの要望を取り上げてくれることになっている。

今後とも道小と連携し、関係機関への働きかけを通して、教育条件整備に取り組んでいきたい。

### 5. 今年度の組織検討委員会の活動概要

下記の検討課題について3回にわたり検討し、9月の評議委員会で中間答申を行った。

- (1) 組織検討委員会の構成
- |     |          |
|-----|----------|
| 委員長 | 前田潤二（宗谷） |
| 委員  | 山下和洋（日高） |
| 委員  | 宮崎文秀（石狩） |
| 委員  | 狩野信也（十勝） |

他に常任委員から（委員長・総務・財政・事務局長）5名の9名で構成。

- (2) 平成17年度の検討課題
- ①道へき・複連の組織体制の改善の検討
  - ②研究推進委員会事業内容の改善の検討
  - ③全へき連負担金健全化にむけての検討
  - ④全道へき研後志大会及び根室プレ研への支援について
  - ⑤次期へき地級別指定見直しに関する件について
  - ⑥道へき・複連要覧の作成と配布について